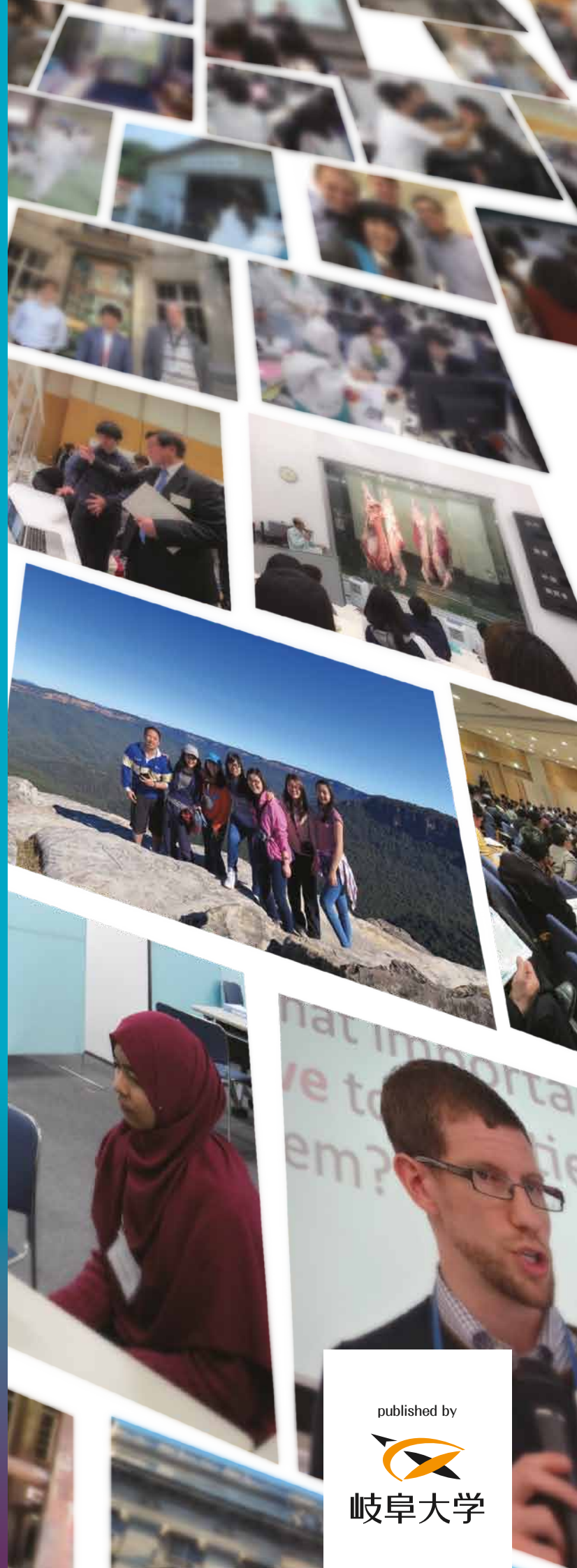


岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2017
Spring-Summer No. **33**

学びのフィールドは 地域×世界



published by



岐阜大学

養老町・八百津町・農林水産省東海農政局と連携に関する協定を締結しました

平成28年10月14日(金)・12月1日(木)・平成29年2月7日(火)

多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に連携を深め、活力のある地域社会の形成及び発展、未来を担う人材育成に寄与することを目的に、地方自治体と連携に関する協定を締結しました。10月14日(金)には養老町、12月1日(木)には八百津町と協定を結び、移住・定住、防災への対策推進や人材育成、地域文化の振興、地域コミュニティ活動の活性化などについて取り組むため、協議を進めていく予定です。また、岐阜大学と農林水産省東海農政局は、2月7日(火)、人材育成や農村振興に関する連携協定を締結しました。本学と東海農政局は、既にいくつかの取り組みで連携をとっていましたが、大学全体での包括的な連携を一層強めていくことを目的として、このたび協定を



締結する運びとなりました。今後、本学と東海農政局は、より緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に連携を深めていくこととしています。

女性研究者キャリアパス支援講演会【「居場所」のない男と「時間」がない女】を開催しました

平成28年10月4日(火)

岐阜大学サテライトキャンパスにおいて、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」清流の国輝くギフジョ支援プロジェクトの一環として、「女性研究者キャリアパス支援講演会」を開催しました。岐阜大学の教職員をはじめ、連携機関の教職員や研究者、一般市民の方61名の参加があり、今後の事業主体や社会のあり方等を考える非常に良い機会となりました。



医学系研究科初の秋季入学式を執り行いました

平成28年10月3日(月)

医学系研究科にとって初の秋季入学式「平成28年度医学系研究科秋季入学式」を医学部長室にて執り行い、大学院生2名が入学しました。医学系研究科は、4月若しくは10月のいずれかを入学時期として選択でき、今回入学の大学院生は10月入学を選択した初めての学生です。式典には、大学院生1名の他、大学院生の指導教員である松田准教授らが出席し、湊口研究科長から大学院生にお祝いと激励の言葉が送られました。



第68回岐大祭が開催されました

平成28年10月27日(木)～30日(日)

「岐大祭」は、学生の正課研究、学術文化活動及び課外活動の祭典です。今年のテーマは「輪」。岐阜大学生と地域住民が交流し、いろいろな繋がりをもち、さらにその繋がりを大きくしていきたいとの願いのもとで開催されました。雨天となってしまった日もありましたが、多くの企画が学生主体で創り上げられ、多くの方にご来場いただきました。ありがとうございました。



広西大学(中国：大学間協定校)で、岐阜大学フェア in 広西大学を開催しました

平成28年10月26日(水)

岐阜大学の協定校である広西大学(中国:南寧市)で、「岐阜大学フェアin広西大学」を開催しました。この行事は、本学や岐阜の特徴等、海外の協定校を会場としたフェアでアピールすることを目的として、今回初めて開催されました。当日は、本学紹介ポスターや「のみやすい」「やさ茶」等の展示が行われ、会場は多くの来場者で賑わいました。



03-05 Topics 岐阜大学のとりくみ Oct.2016→Mar.2017

06-13 【特集】

学びのフィールドは地域×世界

工学部：機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ

応用生物科学部：地域ブランドと地域振興Ⅰ～Ⅲ：飛騨牛倶楽部

医学部：医療英語ワークショップ／海外臨床実習プログラム

岐阜大学基金 特別事業：パロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業

地域科学部：国際教養コース

14-17 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。

がん細胞のエネルギーを制御し、増殖を抑える方法を明らかに!

岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 創薬科学専攻

赤尾 幸博 教授

「形状」ではなく「物質」に着目し、高速で判別できる画像認識手法を開発

岐阜大学工学部電気電子・情報工学科 情報コース

加藤 邦人 准教授

18-19 岐阜大学に誕生した新たな3つの進める力

次世代金型技術研究センター／炭素繊維リサイクル研究センター／生命の鎖統合研究センター

20-21 いまを駆ける! 岐大生FACE

Interview 岐阜大学ボート部前主将

折原 薫也 さん

22 お知らせ

23 岐阜大学基金

巻末 公開講座のご案内

岐阜大学出前講座(旧早野邸セミナーハウスで開催)は平成29年度も開催します

平成29年1月21日(土)

平成28年度に旧早野邸セミナーハウスにおいて「岐阜大学出前講座」を全5回開催いたしました。全体を通して、のべ173人の方に来場いただきました。本講座は、平成28年度より、セミナーハウスにおいて、本学の教育研究の成果を定期的に発信する場や、地域の皆さまの学びの場となることを目的として開催しているものです。平成29年度も平成28年度を上回る全8回の出前講座を予定しています。



「平成28年度ライブラリアンの教育学習支援力コンテスト」で本学図書館が最優秀賞を受賞しました

平成29年1月6日(金)

東海北陸地区国立大学図書館協会が主催する「平成28年度ライブラリアンの教育学習支援力コンテスト」において、岐阜大学図書館が最優秀賞を受賞しました。このコンテストは、東海北陸地区国立大学図書館協会に所属する図書館から応募のあった「教育学習支援活動の事例」について優れた取り組みが表彰されるもので、図書館職員の学習支援力向上や、学生の図書館活用力及び情報リテラシーの向上を目的としています。



「岐阜大学フェアin高山」を開催しました

平成28年11月12日(土)・13日(日)

高山市の飛騨・世界生活文化センターにおいて「岐阜大学フェア in 高山」を開催し、延べ約700名の方に来場いただきました。本フェアは平成21年から毎年実施し、今回はテーマを「学び、究め、貢献する岐阜大学ーひだでステップ×ひだにプラスー」として、初めて岐阜市を離れて高山市内で、主に飛騨地域の高校生を対象に開催しました。本学の取り組みや活動などを広く知っていただく良い機会となりました。



第48回岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティフォーラム」を開催しました

平成28年11月2日(水)

第48回岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティフォーラム」を開催しました。この行事は、本学が「環境ユニバーシティ宣言」した11月を岐阜大学環境月間と定め、関連行事として毎年開催しているものです。今回は、岐阜県立国際園芸アカデミー学長の上田善弘氏を講師にお招きし、学内外から94名の参加者がありました。今後も本学は、様々な知識を集結して環境対策を推進していきます。



平成28年度学位記授与式を行いました

平成29年3月25日(土)

長良川国際会議場にて、平成28年度学位記授与式を行い、学部学生1263人、大学院学生527人が卒業・修了しました。森脇学長は「修得した叡智をもって広く人類に貢献するという志を持ち、キャリアを積み上げて頂きたい」と激励。2人の在学学生代表が送辞を述べた後、卒業生代表の応用生物科学部森直人さんと修了生代表の工学研究科田口雄太さんが、それぞれ力強く答辞を述べました。



第2回同窓会連合会の集いを開催しました

平成29年3月6日(月)

同窓会連合会を、各学部同窓会会員に対し大学の近況を報告するとともに、それぞれの学部同窓会の状況を意見交換することにより、相互の理解を深め、大学と同窓会との連携及び学部同窓会間の連携をより一層推進することを目的として、平成28年度より開催しています。次回開催が近づきましたら所属の同窓会から案内をお送りしますので、引き続き、多くの方のご参加をお待ちしております。



「岐阜県若者の選挙意識を高める会(本学学生有志団体)」及び本学が岐阜県選挙管理委員会から表彰を受けました

平成28年11月30日(水)

岐阜県若者の選挙意識を高める会(本学学生有志団体)及び岐阜大学が、岐阜県選挙管理委員会より「第24回参議院議員通常選挙岐阜県選挙管理委員会表彰」を受けました。これは、平成28年7月の参議院議員通常選挙の啓発にあたり、明るい選挙に努めた功績が顕著であったとして、岐阜県選挙管理委員会による表彰を受けたものです。



大学院連合創薬医療情報研究科創設10周年記念行事を開催しました

平成28年11月25日(金)

岐阜大学サテライトキャンパスにて、大学院連合創薬医療情報研究科創設10周年記念行事を開催しました。連合創薬医療情報研究科では、今後も創薬・医療情報・トランスレーショナルリサーチをキーワードとした教育・研究・人材養成の場としてグローバルな展開を遂げるとともに、キャンパス内のハブ的な役割を更に高めるべく取り組んでいきます。



データで知る岐大生

岐阜大学の学生のみなさんに知って欲しいデータをまとめたリーフレット「データで知る岐大生2017」を発行しました。学生1人が1年間に図書館で借りる本の数や、岐阜県内に就職した卒業生の割合など、データを掲載しています。大学生活を身近に感じるパンフレットとしてご活用ください。



QRコードから「データで知る岐大生」をチェック!!

ISO14001(環境マネジメントシステムの国際規格):2015版の認証を取得しました

平成28年12月9日(金)

岐阜大学は、外部審査機関による環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14001の維持審査、ならびに平成27年9月に改正されたISO 14001:2015規格への移行審査を平成28年10月12日・13日に受審し、平成28年12月9日付で認証を受けました。また、それに伴い新しい審査登録証が発行されました。審査員からは、環境マネジメントシステムが継続的に改善されていることが高く評価されました。



第2回ウィンタースクールが行われました

平成28年12月5日(月)~22日(木)

グローバル推進本部は、岐阜大学として2回目の実施となるウィンタースクールを開催しました。本年度は、ジョイント・ディグリープログラム(連携する大学間で開設された共同プログラムを修了した際に、複数の大学が共同で単一の学位を授与するもの)の設置を視野に入れて、前年度の実施校のインド工科大学グワハティ校(IITG)に加え、マレーシア国民大学(UKM)からも学生を受け入れています。



岐阜大学工学部が、平成28年に開講した「機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ」。特定分野の理解を深め、企業でのものづくりに対する姿勢を知ることなどを目的に、県内企業の経営者・技術リーダーによる企業の魅力を伝える講義や受け入れ企業で現場の課題解決をテーマとする演習を実施。授業最終日には、関係者約300人の前で演習の成果を報告するプレゼンテーションを行います。演習課題に取り組んだ学生と演習先企業の担当者に話をうかがいました。

CASE 1

秋田屋本店株式会社

演習課題 ウィダーinゼリー生産ラインにおける改善策の検討

こんな会社です

文化元年に秋田杉の材木商として創業。明治20年に養蜂事業を始め、200年を超える歴史を持つメーカー。養蜂器具やミツバチの販売だけでなく、はちみつやローヤルゼリー、プロポリスといった蜂製品の加工・販売など、養蜂全般を手掛ける。今回の演習はゼリー飲料のOEM製造を行う洞戸工場で実施。



参加学生インタビュー

夏休みに参加した企業でのインタビューで設計の研修を受け、設計と関係の深い生産技術について学びたいと思い、演習先に秋田屋本店を選びました。与えられた課題は、ゼリー飲料生産ラインにおける排出シユートの形状改善。製品が充填機の排出シユートから殺菌機に正しい向きで流れず、ライン全体を停止させることもあり、生産性の低下を招いていました。

製造の現場で生産技術を学び、後工程の重要性が実感できました。

岐阜大学工学部4年 機械工学科機械コース 松橋 仁美 さん



私は排出シユートにガイドをつけることで製品の姿勢が安定すると考えて設計しました。ただ、排出シユートの試作品をラインに設置してみたところ、うまく製品が流れません。自分が手作業で成形する工程を考えずに設計したため、設計図通りに試作品を作れなかったのが原因です。この経験から、設計段階で現場の仕様や後工程までを考える大切さが実感できました。工学部の3年生が企業で学ぶ機会は珍しく、演習の話は就職活動の面接で話のタネになっています。卒業後も、授業で学んだことを生かして、ものづくりに携わりたいです。

演習受入企業インタビュー

大胆で自由な発想に感心しました。当社を知ってもらえたのもうれしいです。

学生から提案された改善案は、想像以上に素晴らしいものでした。発想が大胆で自由。「なるほど!」と感心させられるとともに、日頃、私達が先入観にとらわれていることに改めて気付かされました。改善案の中には非常に優れたものがあり、改良を重ねて実際に生産ラインに取り入れていく予定です。学生には、改善案を考えてもらうだけでなく、アルミ板でモデルを試作し、それを生産ラインに実装して動作確認や評価を行うところまで実践してもらいました。一連の作業を通して、アイデアを形にする醍醐味や難しさを体感してもらえたと思います。

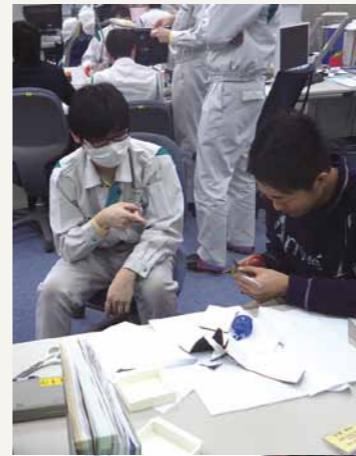


演習先担当者 株式会社秋田屋本店 洞戸工場 指導役 武藤 幸彦 さん

今回の演習で特に印象に残っているのは、学生が苦勞しながらも終始楽しそうに取り組んでいたことです。私自身、若い感性を持った学生との交流はとても刺激的で楽しめました。洞戸工場でウィダーinゼリーを生産していることや生産現場の様子など、当社のことを深く知ってもらえたのもうれしいですね。

学びのフィールドは 地域×世界

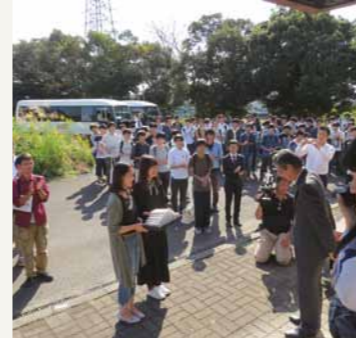
「地域に根ざした国際化」を研究・教育の両面で展開し、その成果を地域社会に還元することを目指す岐阜大学。「地域」や「世界」での学びを通して、世界中どの地域でもその地域課題の解決に取り組むことができるグローバル人材の育成に力を入れています。本特集では、岐阜大学各学部での特徴的な教育プログラムを取り上げ、地域社会の実践的な国際化と成果の地域還元による相互の発展に貢献する岐阜大学の人材育成を紹介します。



工学部：機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ

地域 LOCAL

県内企業での実践型演習でものづくりへの理解を深め、活きた課題の解決に取り組む。

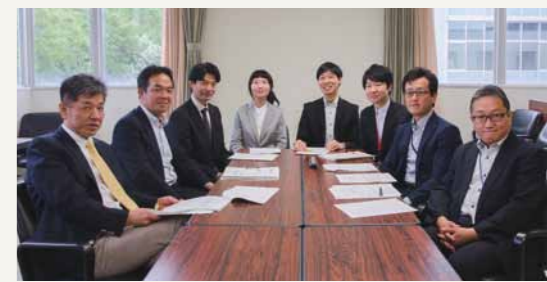


岐阜大学と、県内企業や地域金融機関、岐阜県が一丸となって推進するプロジェクトの一環として、平成28年に開講された工学部の授業「機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ」。現場での課題解決を通して創造性を育み、次世代のイノベーションを創出する高度な技術を備えた人材の養成に取り組んでいます。

まずは、もっと県内企業の魅力を知ってもらいたいです。

岐阜県の産業を担う若い人材の育成・定着を目的に立ち上げられた「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」。人材確保が大きな課題となっている県内企業、地域人材の育成を担う岐阜大学、県内企業の成長を支援する地域金融機関、地域の行政を担う岐阜県が一体となり、平成28年度から本格的に事業をスタートしました。

プロジェクトの一環として行われた「機械工学創造演習・知能機械工学演習Ⅲ」では、学生に日本を支える優れた技術力を体感し、ものづくりへの興味を深め、県内企業の魅力を知ってもらうことを目的としています。初年度は岐阜大学工学部3年生が県内企業13社で演習を実施。参加した学生からは「ものを一から作る楽しさを感じた」「企業の方々からの期待を実感した」、演習を受け入れた企業の方々からは「学生の新鮮な発想に触れ、社員にも刺激になった」「県内には、面白くて、元気で、温かい企業があることを知ってもらえた」などと感想をいただき、学生と企業の双方に実りの多い演習になりました。



産学金官連携プロジェクト 受け入れ企業リスト

- 株式会社オンダ製作所 様
- アサヒフォージ株式会社 様
- 株式会社イマオコーポレーション 様
- 株式会社秋田屋本店 様
- 株式会社水生活製作所 様
- 株式会社岐阜多田精機 様
- 株式会社ギフ加藤製作所 様
- 株式会社ナベヤ 様
- 株式会社黒田製作所 様
- 株式会社樋口製作所 様
- 日興オートメ株式会社 様
- 鳥羽工業株式会社 様
- 大垣精工株式会社 様



地域 LOCAL
 応用生物科学部
 「地域ブランドと地域振興I~III: 飛騨牛倶楽部」

**地域ブランド「飛騨牛」
 を通して、課題を認識し、
 アイデアをまとめ、解決
 策を提案する力を培う。**

応用生物科学部が開講している「地域ブランドと地域振興I~III: 飛騨牛倶楽部」。JA全農岐阜の協力の下、集中講義と現地実習を通して、地域ブランドのあり方や振興について学び、地域の課題解決を実現する人材育成を図ります。

**飛騨牛と岐阜の
 魅力を再発見し、
 将来の道も
 広がりました。**

私は1年次に友人に誘われてこの授業を受け、以降3年間受講しました。飛騨牛は、霜降りの多い肉質が高く評価されている岐阜のブランド牛です。受講当初に比べると、講義や文献の調査、実習から飛騨牛の知識がかなり広がりました。特に印象的だったのが、1、2年次の現地実習や3年次のインターンです。農家さんからは育て方で牛の性格が変わり、肉質まで変化することをお聞きし、また牛舎の清掃や飼育などの体験



岐阜大学応用生物科学部3年
 応用生命科学課程 食品生命科学コース
上田 裕紀 さん

を通して、ブランド価値の維持がどれだけ大変かなどを実感として掴みました。最終的なプレゼンでは、1年次には県内消費量の多さに注目。その強みを生かして、飛騨牛を味わう観光ツアーの増加を提案。また、2年次には霜降り具合を数値にして表し、イメージを高める案を出しました。毎回、準備は大変でしたが、グループ内で役割を分担し、異なる意見をまとめた経験は今後も役立つと実感しています。3年間で飛騨牛の魅力に気付き、岐阜のことが好きになりました。一次加工品の理解が増したので、今後は二次加工品の研究に生かし、将来は食品系の企業に就職したいです。



「飛騨牛倶楽部」外部講師
 JA全農岐阜
 畜産部 畜産販売課
 しかた
四方 義人 さん

学生らしい視点の提案に期待を寄せています。

私はこの授業に外部講師として協力し、農家や関係機関での現地視察やアテンドもしています。飛騨牛はJA全農岐阜の中でも重要な品目です。肉質や衛生管理に定評がありますが、課題は首都圏での知名度。授業をきっかけに、学生ならではの視点を取り入れ、振興に生かしていきたいです。実際に「他の銘柄牛のウェブサイトより見劣りする」という意見を反映し、改善を施しました。

飛騨牛倶楽部での学びや経験から、将来その生産や地域の産業に関わり、岐阜県をさらに盛り上げたいと思う学生が増えることを待望しています。

「地域ブランドと地域振興I~III: 飛騨牛倶楽部」

地域にとけこみ活躍する人材の育成を目指す「大学COC事業」の一環として、平成26年に開講。応用生物科学部の教員の指導の下、JA全農岐阜の職員ら外部講師による講義で、飛騨牛ブランドの立ち上げから現在までの取り組みを学習する。さらに、生産や販売の現場を視察し、関係者と意見交換を行いながら、飼育や販売戦略における課題を認識。この講義の総括として、グループごとに今後の飛騨牛ブランドのあり方や振興策をまとめ、最終日にプレゼンテーションを行う。



「飛騨牛倶楽部」担当教員
 岐阜大学応用生物科学部
 生産環境科学課程 応用動物科学コース
八代田 真人 教授

説得力のあるプレゼンに成長を実感しました。

学生にはこの授業を通じて、課題解決の方法を学び、地域貢献できる人材になってほしいと願っています。授業の特色の一つである現地実習では、飼育農家やセリ場の見学し、子牛の減少や離農などの課題を理解していきます。また、JA全農岐阜の方や農家、研究者を交えたグループワークを通して、自らの考えを提示しつつ、多様な意見を集約し、創造的な解決策を導く手法も身に付けます。

最後に、各自が飛騨牛ブランドの新たな展開案を発表した際、原価計算をもとにした新商品など、説得力のあるプレゼンに成長の跡が見え、今後に大いに期待を抱きました。

演習先企業での課題解決事例

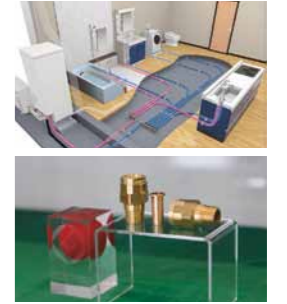
CASE 2
株式会社オンダ製作所

演習課題 商品開発 (商品イメージの提案から3Dモデリングまで)

配管技能講習、2D・3D CAD研修、
 新商品アイデア提案、CADでモデリング、
 3Dプリンターでのサンプル作成、
 商品企画提案書の作成

こんな会社です

業界トップクラスのシェアを誇る、継手、バルブ、パイプなど配管資材の総合メーカー。材料・部品・製品の設計・開発までワンストップで行い、全国19カ所の営業拠点より販売。自社企画製品が、2015年度、2016年度グッドデザイン賞を受賞。今回の演習は、関市の本社および工場で実施。



参加学生インタビュー

**アイデアの伝え方を
 考えるようになりま
 した。**

演習で苦労したのは新商品のアイデア提案です。全く新しい企画を出そうと試みましたが、なかなかいいアイデアが思い浮かびませんでした。アイデア提案の締切が迫った頃、オンダ製作所の方からいただいた「既存の商品をヒントにする」というアドバイスを出し、「片手で切れるキッチンペーパーホルダー」を思い浮かべました。家で料理をする時、キッチンペーパーが片手

で切れず、不便に感じていたからです。アイデアがまとまり、試作品を3Dプリンターで作ったら、プレゼンの準備。ただ、初めて経験するプレゼン資料の作成が大変でした。「文字ばかりだと読まれないので、写真を大きくすると良い」とアドバイスを受けて、内容を改善。相手にどうやって自分の伝えたいことが伝わるか考えるようになりました。講義最終日の成果発表会は大勢の人から注目を浴びて、とても緊張しました。練習の甲斐あって、アイデアのポイントが伝えられたと思うので、この経験を今後に生かしていきたいです。



岐阜大学工学部4年
 機械工学科機械コース
 やすあき
服部 晏明 さん



演習受入企業インタビュー

**学生が意欲的に演習課題に取り組んでくれて、
 自分にとっても刺激になりました。**

学生には、商品開発の楽しさや難しさを知ってもらいたいと思い、新商品のアイデア提案からプレゼンに至る一連の流れを演習で行いました。「身近にあったらいいもの」というテーマで新商品を考えてもらったところ、多くのアイデア提案があり、前向きな取り組み姿勢に私も刺激を受けました。ただ、アイデアを形にして、その魅力を人に伝える作業には苦労したようです。実際に弊社で使用している提案書を使ってプレゼンをしてもらいましたが、最初はプレゼン用の資料も発表も、ポイントが曖昧なものが多かったです。しかし、本番の成果発表会では新商



演習先担当者
 株式会社オンダ製作所
 商品開発本部
 としひさ
永原 稔久 さん

品の強みにポイントを絞ったプレゼンが行われ、短い準備期間の中で学生の成長を感じました。

私達企業にとって、この演習は学生に企業のことを知ってもらいいい機会です。私自身岐阜大学の卒業生ですが、就職活動をするまで弊社のことを知らなかったのが、今後こうした取り組みを続けてほしいと思います。

海外臨床実習プログラム：参加者インタビュー



岐阜大学医学部医学科 平成29年卒業
白川 千種 さん



海外臨床実習に参加した
と思ったのは5年次の時
です。「視野を広げ、新しい
観点で物事を捉えられるよ
うになりたい」と思っていた
上に、海外勤務が多い父か
らの「学生の間に海外へ出
てみる」という言葉
も後押しとなりました。
実習はシドニーのロイヤル
アルフレッドプリンスホスピ
タルの血液内科で行いまし
た。オーストラリアは多民族
国家なので、人種も宗教もさ
まざまな患者が来院します。
同一民族の日本と違い、がん
の告知といった難しい場面
では患者によって対応を変え
る必要があります。苦労するこ
ろだと感じました。また実
習時には、指導医が深刻な病
状の患者に対して、手を握っ
て、目を見て、向かい合っ
ていたことをよく覚えていま
す。患者さんを思いやる気持
ちは万国共通なのだと思っ
て実感したとともに、医師の

医療現場に携わる者
として、英語という
言語の必要性を肌で
感じました。

熱意に感銘を受けました。
大変だったのは想像以上
に言葉の壁があったこと
です。日本以外の国では医学
教育は英語で行うことが多
く、仲良くなった香港の留
学生に助けを求めたことも
多々ありました。香港では
小さい頃から英語を学び、
みんな当たり前のよう
に話せます。また臨床現場
では常に英語で情報がアッ
プデートされるので、英語が
できれば簡単に最新情報に
入れることができます。
私も情報を収集し、実習の
予習をするなど努力はしま
したが、改めて世界と日本
の医学生の違いを感じ、大
きな刺激になりました。
海外臨床実習を経て異文
化や民族を以前よりも容易
く受け入れられるようにな
ったことは自分にとって大き
な変化でした。また言語が違
ってもきちんと向き合っ
て話せば、気持ちを伝えること
はできることも学びました。何
より、同じ志を持つ友人に出
会えたことはかけがえない財
産です。この経験を通して、
これから日本で医師として
働くにあたり、新しい視点を
得ることができたと思いま
す。私にとって、「一生忘れ
ることのない一カ月です」。



MEDCスタッフ
教務補佐員
早川 佳穂 さん

情報源として活躍

さまざまな相談に対する学生たちの窓口
となり、例えば英語の履歴書作成については
今福先生へ、など情報入手先のパイプ役を
行っています。また実習先での不安や心配に
ついて答えられるように、先輩の学生から
なるべく多くの情報を得る努力もしています。
今後も常に情報を更新しながら、学生を支え
ていきたいと思っています。



「海外臨床実習プログラム」指導教員
岐阜大学医学教育開発研究センター
今福 輪太郎 併任講師

学生と同じ目線で相談に

主に海外臨床実習受け入れ先への書類の準備や、英語での履歴
書の添削やサポートを行っています。学生にとって勉強や留学の
準備の忙しさに加え、英語で自己PRを表現するのはかなり負担
だと思います。そこをきちんと手助けできるよう、普段は学生と
同じ目線で話し、相談しやすい雰囲気づくりを心がけています。
実習から戻った学生たちのたくましく成長した姿を見ると嬉し
いですね。今後ももっと多くの学生に参加してもらいたいと願っ
ています。



医学部：海外臨床実習プログラム / 医療英語ワークショップ

世界
GLOBAL

医療現場において
英会話で対応可能な
グローバル医師を養成。

岐阜大学医学教育開発研究センター
MEDC Medical Education Development Center

MEDC (医学教育開発研究センター) では全国80の医科大学・医学部の医
学教育に関する唯一の共同利用拠点として、医学教育セミナーやワー
クショップを実施。その中の「海外臨床実習プログラム (ECAP=Elective
Clerkship Abroad Program)」は諸外国の医療機関で実習を行います。

海外臨床実習プログラム
(ECAP)の申請条件

- TOEFL ITP 550点以上 (IBT 79点以上)
- 医療英語ワークショップへの8割以上の出席
- 一定以上の学業成績
- 英語OSCE受験 (医療面接)



「海外臨床実習プログラム」指導教員
岐阜大学医学教育開発研究センター
岐阜大学大学院医学系研究科 医学教育学分野
さいま 卓也 准教授

MEDCでは、選択臨床
実習期間において、「海外臨
床実習プログラム (ECAP
P)」を推進しています。選
択臨床実習期間とは、岐阜
大学での実習を行った後、
将来専攻したい診療科や研
修してみたい病院を選び、
さらに実習を行う期間のこ
とです。ECAPの実習先
が海外なので、学生たち
には、最低限の英語力を身
につけて実習に臨んで欲しい
ため、厳しい申請条件を課
しています。そして課外授
業「医療英語ワークショップ
」への8割以上の出席
や臨床能力試験「英語OS
CE」での合格を経て、晴
れて参加できます。
ECAPについては約
9年前から試行錯誤しつ
つ推進してきました。最大の
目的は医療現場において
世界の多様な文化に触れ、
海外の人々と協働する気持
ちを持つ「グローバルマイ
ンドセット」を育むこと
です。昨今はめまぐるしく国
際化が進み、素早く海外の
医療情報を取り入れながら
診療することにも増え
ています。また日本では検
査結果を診断に使う比重が
高いのですが、海外では最
初に医療面接と身体診察を

じっくりと行い、推論して、
そこから検査へ進むという
医療方針の違いもありま
す。このような状況に対応
するために、医療英語ワー
クショップで留学生に模擬
患者役を頼み、英語での医
療面接を行い、英語力とコ
ミュニケーション力を養成
するので。
またECAPでは医学
生1人きりで約1カ月間、
外国の医療現場に身を置
くため度胸がつき、より多
くの医療英語とグローバル
マインドセットを身につけ
て帰ってきます。こうした
成果が先輩から後輩へと
伝わり、より多くの学生が
触発されて7年前までは
10人程度だった参加者がこ
こ2年で20人以上に増え
ました。この実習を経て実
際に海外の医療機関で働
く卒業生が増えることを
期待しています。
今後はより多くの学生が
参加できるようにeラーニ
ングやスカイプなどのイン
ターネットを利用した授業
を展開したいと思っていま
す。また医療英語の教材や、
1年次から英語を用いた授
業を増やし、さらに英語力
を高める機会を提供したい
と考えています。



※医療英語ワークショップ

実践的な医療英語を学べる参加型ワー
クショップ。課外授業で履修単位にはなら
ないが、ECAP参加希望者は8割以上の
出席が必須となる。外国人医師や海外
での臨床・研究経験を持つ日本人医師を
学外から招聘し、医療面接やプレゼン
などのワークショップを英語で行う。全5回。



※英語OSCE (オスキー)

Objective Structured Clinical
Examinationの略。客観的臨床能力試
験のこと。医療面接などのブースを10
分前後で回る実技などで、英語力やコ
ミュニケーション力などの臨床能力を
評価する。身体診察やカルテ記載など
試験内容も多岐にわたる。



▲授業では、英語での自己紹介やプレゼンなど、語学力を高めるための実践的なカリキュラムが組まれています。

地域科学部：国際教養コース

世界
GLOBAL

語学力の向上と異文化理解を促進する国際教養コースを新設。

文部科学省が進める国際化の取り組みの一環として地域科学部に新設された「国際教養コース」。国際社会において求められる幅広い教養と、自文化ならびに異文化への理解力を身につけるため、1年間の留学を必修とし、グローバルな学識を持つ人材育成に取り組んでいます。



「国際教養コース」担当教員

岐阜大学地域科学部地域政策学科
山本 公德 准教授

平成28年4月に始まった国際教養コースでは、日本人学生については外国語力の向上と同時に、留学を通して異文化への理解を促します。外国人学生については、集中的な学習で日本語や日本文化への理解を深め、グローバルな学識を養うことを目標としています。

大きな特徴のひとつが、1年間の正規プログラムで学ぶ交換留学です。留学先の学術交流協定大学での取得単位を単位として認定し、就職活動などへの影響を考慮し、留学期間を2年生後期から3年生前期に設定。4年間で卒業することが可能です。学内においても留学生と一緒に学ぶ機会や英語の講義を増やし、留学条件となるTOEFLの試験対策なども積極的に展開。TOEFLが40点代から60点代半ばまで上昇した学生もいます。留学先では語学だけでなく、異文化への理解を深めてもらいたいのです。そして将来的には、当コースでの学びを活かし、地域で起こる外国人との文化的摩擦をうまく解消し、緩衝材のような役割を果たせる人材に育ってもらいたいと考えています。



岐阜大学地域科学部
国際教養コース2年
保坂 泉 さん

英語力の向上を実感！
TOEFLの得点も
20点上がりました！

国際教養コースの第一期生として 今年の秋に留学する2名の学生に話をうかがいました

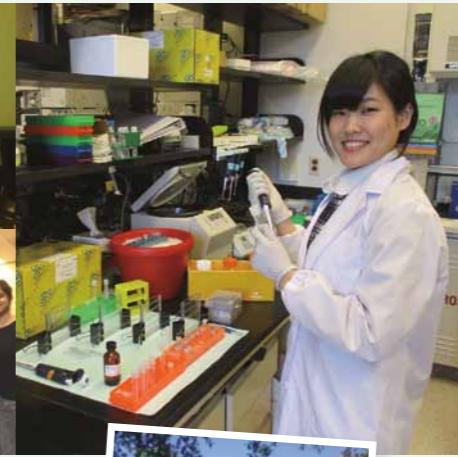
高校時代に語学研修でイギリスを訪れた経験から、大学でもぜひ留学して世界をもっと広く学びたいと考えていました。国際教養コースではプレゼンを数多くこなすため、英語で意見を述べる力が格段に上がったと思います。また、1年生の後期は英語の授業が週6コマと多く、さらに試験対策を通じて苦手を克服できたことでTOEFLの得点も20点ほど伸びました。留学先では初めての一人暮らしを経験します。不安もありますが、さまざまな経験を通じて自分を成長させたいです。

以前から海外留学に興味があり、地域科学部に国際教養コースが新設されるのを知り、岐阜大学への入学を決めました。印象に残っているのは「言語と社会A」の講義です。自己紹介を考えて英語でプレゼンをするなど、高校までの受け身の内容とは違い、主体的な授業が多くて新鮮でした。留学先のオーストラリアは移民が多い国ですから、異文化に触れる機会がたくさんあると思います。自分から学ぶ姿勢を常に心掛け、いろんなものを吸収したいと思っています。

岐阜大学地域科学部
国際教養コース2年
松井 美樹 さん



自己紹介を英語で
プレゼンしたのが
とても新鮮でした！



バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業

世界
GLOBAL

地域企業の後押しを受け、世界最高峰の研究機関に大学院生が留学。



岐阜大学大学院工学研究科 生命工学専攻
博士前期課程2年
長瀬 春奈 さん
研修先：アメリカ国立衛生研究所 (NIH) 内国立
心肺血液研究所 (NHLBI) / アメリカ (12カ月)



岐阜大学基金の新たな奨学金として、平成27年に創設された「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業」。本奨学金を受け、初めて派遣された岐阜大学大学院博士前期課程の学生2名が、それぞれの留学先で大学院での研究をさらに深めるとともに、実践的な語学力やプレゼンテーション能力を磨きました。

もともと私は大学院で、薬になり得る物質を有機合成する研究を行っていました。そうしてできた物質の分析や評価手法を身に付けたいと、企業からの奨学金を受け、世界最高峰の医学・創薬の研究機関、NIHへの留学を決めました。NIHは専門分野の講義や実験技術習得のためのワークショップが充実しています。また、岐阜大学の工学研究科とは部局間協定を締結しているため、大学院を休学する必要がないことも魅力でした。

私が所属したラボは、糖タンパク複合体であるコンドイチン硫酸プロテオグリカン(CSPG)の機能を解明し、神経損傷の治療に役立てる研究が中心でした。私の課題は、CSPGを半定量的に評価できる実験系を確立すること。専門が異なる上、英語での討論はとても苦労しましたが、最後には国際研究集会でのポスター発表が実現。解明に貢献できたことは感慨深いです。

留学を経て、研究の根底に人の命があることを意識するようになり、目指す道を見つけました。春からは物質評価の研究室へ移り、未知の分野を追求します。



岐阜大学大学院工学研究科
環境エネルギーシステム専攻
グローバル環境・エネルギーコース 博士前期課程2年
紀平 一真 さん
研修先：インペリアルカレッジロンドン (ICL) / イギリス、
バーデン・ヴェルテンベルグ州立太陽エネルギー・水素
研究センター (ZSW) / ドイツ (2カ月)

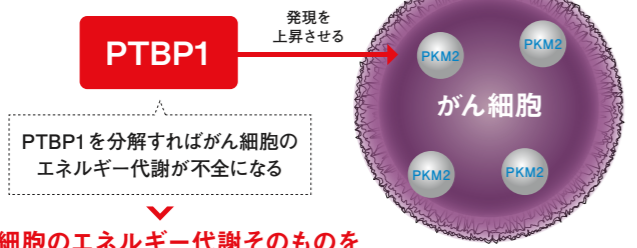
私は大学院で、シリコンの代替としてグラフェンを太陽電池に活用する研究をしていました。グラフェン系物質における精度の高い理論計算を学び、実践的な語学力を修得するため英国ICLへ留学。続いてドイツZSWを訪れ、研究者から、再生可能エネルギーとしての太陽光発電の可能性を聞き、研究の意欲がさらに高まりました。帰国後、留学先で修得した理論計算を活用した研究を論文発表でき、就職先の電力会社でも、電気の人々の生活を支えたという夢ができました。



岐阜大学基金 特定事業「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業」

岐阜大学大学院生の海外研修を支援する制度。(株)バローホールディングスと、「Vドラッグ」を展開する中部薬品(株)の寄付により、平成27年に創設。大学院生が海外の大学や研究機関及びこれに準ずる機関において単位習得や専門の研究を行う場合、渡航費、滞在費、授業料などを援助する。海外での研修の機会を増やすことにより学生の資質を高め、国際的な視野に立った人生観を得るとともに、より積極的に勉学に励む人材を育てることを目的とする。

がん細胞のエネルギー代謝に欠かせない「PKM2」を上昇させる「PTBP1」を特定



がん細胞のエネルギー代謝そのものを
破綻させる新しい創薬となる

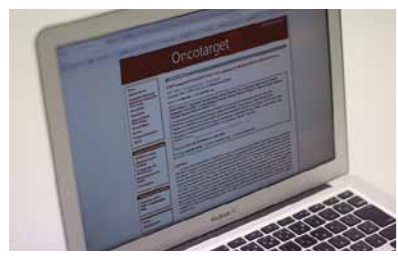


がん細胞特有のエネルギー代謝に着目。
これを司る遺伝子を特定しました。

私の研究テーマは、「がん」の病態を明らかにして標的にすべきところを決め、創薬に貢献することです。現在、臨床では主に分子を標的にした抗がん剤が使われていますが、私たちが研究しているのは、分子ではなく、がん発症に繋がる遺伝子を攻撃するもの。タンパク質を合成する「メッセンジャーRNA」の中からがんの発症や病態に関与するものを、マイクロRNAという短い核酸を用いてつぶす「核酸医薬」と呼ばれるものです。今回の研究で、私はがん細胞特有のエネルギー代謝に着目し、これを制御する遺伝子を特定しました。そもそも、細胞がエネルギーを得る方法には、「糖系」と「クエン酸回路」による電子伝達系」という2つの仕組みが存在します。正常な細胞では、酸素を使うことで効率的かつ多くのエネルギーが得られる後者を使いますが、がん細胞では、酸素を使うことで効率が低く、効率は悪いものの、より早くエネルギーを得られ、さらに増殖に必要な核酸の材料が生じる「糖系」に偏ったエネルギー代謝をしています。こ

がん細胞のエネルギーを制御し、増殖を抑える方法を明らかに！

がん細胞の増殖に必要なエネルギーを阻害するメカニズムを解明しました。従来のがん治療薬は、細胞を増殖させる分子の働きを抑える仕組みですが、今回の研究では、がん細胞の生存の仕組みそのものに着目し、増殖を抑制する方法を明らかにしたのです。がんの種類を問わず効果を発揮し、薬剤耐性を誘導しない薬の開発に繋がればと期待しています。



研究成果が平成28年3月9日、がん研究において世界的に権威のある科学誌「Oncotarget」にて学術雑誌論文として公開された

の現象は「ワーバーク効果」と呼ばれるもので、がん細胞では「PKM2」というタンパク質がたくさん発現することで、糖系を維持・活性化していることが分かっています。今回、私たちはこのPKM2の発現を上昇させているタンパク質「PTBP1」を特定することに成功しました。これにより、がん細胞のエネルギー代謝のメカニズムが明らかになりました。さらに、PTBP1がコードされたメッセンジャーRNAを、特定のマイクロRNAを用いて選択的に分解すれば、がん細胞の増殖を顕著に抑えられることも突き止めました。これが核酸医薬として実現すれば、分子を標的とした薬と違い、薬剤への耐性が出ないため、今後の創薬の主流になるだろうと考えています。

がん細胞の研究を通じて
生命のメカニズム解明に迫りたい。

がん細胞のワーバーク効果は、がんの増殖や生存、エネルギー獲得の根幹に関わるものです。そのため、ワーバーク効果を破綻させる今回の発見は、あらゆるがんにおいて効果が期待できる上、薬剤の耐性も出現しにくいことから、創薬に向けて大きな可能性を秘めています。すでにPTBP1がコードされたメッセンジャーRNAを分解できる低分子のRNAを作製済みで、今後は臨床応用に向けて研究を加速させていく予定です。ただ、血液中にはRNAを溶かしてしまいうタンパク質が存在し、直接投与してもすぐに分解されてしまうのが課題です。そのため、がんの病巣に薬を届ける搬送システムの確立も目指していきたいと考えています。私が研究する上で大切にしているのは、サイエンスへの興味を持ち続け、常に頭の中で疑問を持ち続けることです。これからも科学への情熱を絶やさず、究極の生命力を持ったがん細胞を通じて、「生」のメカニズムを研究し続けたいと思います。

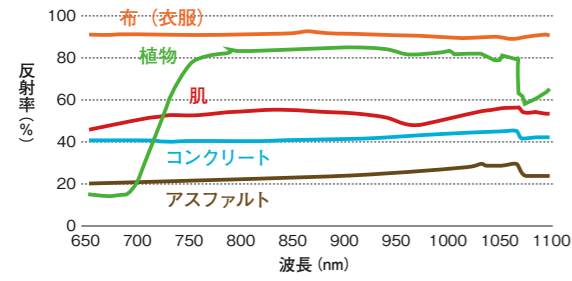


岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科
創薬科学専攻
赤尾 幸博 教授

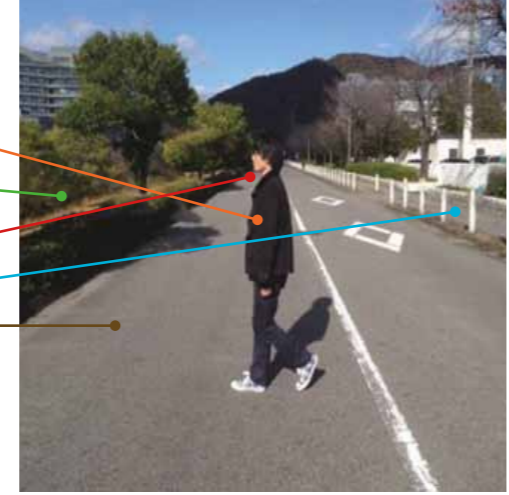
※1. そもそも「RNA」って？
核酸の一種であるリボ核酸 (Ribo Nucleic Acid) の略で、動物の細胞の核内や細胞質の内部、ウイルスなどに存在します。「メッセンジャーRNA」とは、DNAからコピーした遺伝情報を基にタンパク質を合成するRNAのこと。「マイクロRNA」とは、遺伝子の発現を抑制する効果を持つ小さなRNAで、近年の研究により、がんの発症と深い関わりがあることが明らかになってきています。

※2. がん細胞が「糖系」なのは？
がん細胞の多くが糖系に偏ったエネルギー代謝を行っています。その理由はいまだはっきりと解明されていないものの、①クエン酸回路と比べて反応の段階が少なく、エネルギーを早く作れる、②酸素を必要としないため、がん細胞にダメージを与える活性酸素が出ない、③糖系の中間代謝産物が、がん細胞の分裂に必要な核酸の材料になっている、などが考えられています。

※3. 「ワーバーク効果」とは？
ドイツ人生理学者のオットー・ワーバークによって報告された、がん細胞の増殖、生存、エネルギーの獲得に有利に働く仕組みのこと。酸素がたくさんある場合、通常の細胞では、「クエン酸回路」という効率的なエネルギー代謝を行います。酸素が十分にある状態でも、がん細胞では効率が悪い「糖系」に偏ったエネルギー代謝が行われていることを明らかにしました。



近赤外線を照射すると、それぞれの物質特有の反射特性を示す。例として、肌は970nm周辺の反射率が低い。その違いをコンピューターに学習させ、物質を判別する。



「形状」ではなく「物質」に着目し、 高速で判別できる画像認識手法を開発

近赤外線を用いることで、従来の手法よりも高速で物質を判別する方法を開発。その成果を発表した画像認識分野の研究会「ViEW2016 (Vision Engineering Workshop)」で優秀論文賞を受賞しました。メーカーとの共同開発により、食品加工工場での異物混入検査や、自動車での歩行者検出など、実用化に向けたプロジェクトを進めています。

私が専門的に研究しているのは、「画像認識」と呼ばれる分野です。最近では障害物を識別してブレーキを作動させる自動車の走行安全システムをはじめ、さまざまな分野で活用され、次世代のものづくりを担う技術として注目されています。歩行者を見つけてブレーキを作動させる時には、あらかじめコンピューターに人の形を学習させておき、その形を検知します。ただ、自動車の走行安全システムとなると、道路やコンクリート、植物、歩行者など、多くの対象物を判別する必要があります。すべてを形から判断するのはかなりの計算時間を要します。また、あらかじめ学習した形状しか認識できないのも大きな課題です。そこで私が開発したのが、「形状」ではなく「物質」という観点から判別を行う新たな画像認識システムです。私は以前から、ドライバーの居眠りや脇見を監視するための画像認識を、自動車メーカーと共同研究していました。監視をするためには、暗い車中でどこに顔があるのかを判別しないとダメです。そこで目を付けたのが、目に見える

近赤外線の反射特性を使い、
物質の違いを瞬時に判別します。



機械の緊急停止などで実用化し、
ゆくゆくは自動車にも応用したい。

い近赤外線を照射する方法でした。この研究を進めるうちに、自動運転の開発が本格的に始まりました。車内を想定して開発してきた技術を、車外の歩行者検出にも応用してみようという話を持ち上がったのです。今回開発した方法では、近赤外線の反射率の違いをコンピューターに学習させることで、肌、アスファルト、コンクリート、植物、布を、瞬時に判別することが可能です。物質にはそれぞれ特性があり、照射する近赤外線の波長によって反射率が変化します。そのため、少しずつ波長を変えた176枚の画像の反射率を分析すれば、物質の判別ができるのです。ただ、膨大な画像を計測するには、「形状」の分析と一緒で時間がかかります。そこで統計的な分析手法を用いて、似たデータを省き、有効なものだけを選択するようにはしました。その結果、波長の異なる5つの画像から認識するだけで、物質を判別する方法を確立できたのです。



開発に携わった物質判別システムは、結果がすぐに画像として現われ、取り組んだ分だけ徐々に精度が上がっていくため、とても楽しかったです。卒業後は自動車部品メーカーに就職し、画像処理を使った安全走行分野の開発を担当します。これまでの研究を活かして頑張りたいですね。

岐阜大学大学院工学研究科
応用情報工学専攻
博士前期課程2年
服部 哲也 さん

電気自動車やハイブリッドカーでは走行に膨大な電気を使うため、車載用のコンピューターは消費電力が少ない小型のものが求められています。その点、私が開発した方法なら、小さなコンピューターでも簡単に計算でき、リアルタイムで高速に物質を判別できます。また、近赤外線は、夜間でも高精度の判別が可能です。すでに実用化に向けたプロジェクトも動き始めていて、現

時点では工場内や会社の敷地内での実用に着目して開発を進めています。その一つが、作業員の危険を回避するための、ロボットアームや運搬装置などの緊急停止システムです。工場内は多くの人や物であふれているため、形状での判別は困難です。ただ、物質判別システムならそれが可能ですし、極端な話、近赤外線に特殊な反射をする作業服を着れば、人かどうかを瞬時に判別できます。まずはこうした分野から開発を進め、将来的には自動車などにも広く展開していければと思います。

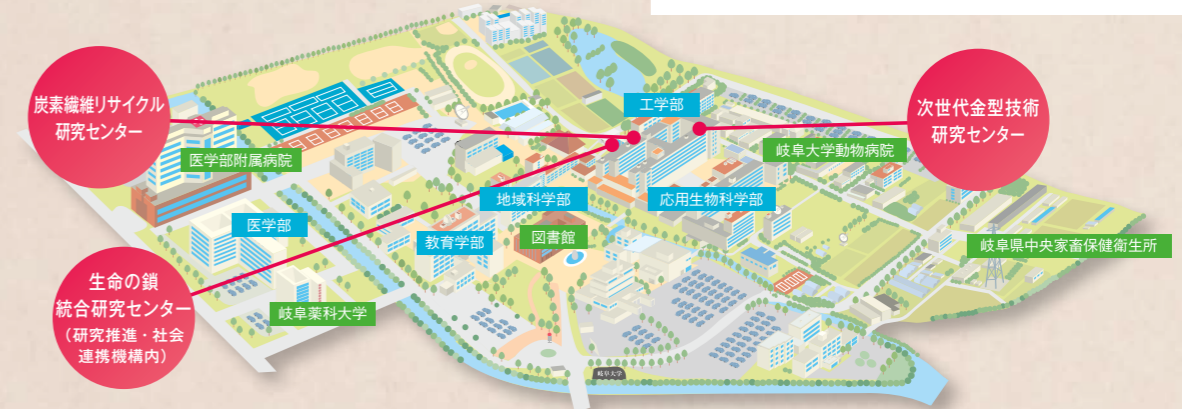


岐阜大学工学部電気電子・情報工学科 情報コース
知能科学研究センター 副センター長

加藤 邦人 准教授

岐阜大学に誕生した 新たな3つの 進める力

医学・薬学・獣医学・工学・応用生物科学の研究・教育拠点がワンキャンパスに集まる岐阜大学に、3つの新たなセンターが誕生しました。世界トップレベルの研究者たちが持つ叡智を個々の分野に留めるのではなく、学部や組織を横断して双方向的に連携させると同時に、センターを核としたコンソーシアムの形成などを通じ、外部とのつながりの強化を図るのが狙いです。これにより、岐阜大学が持つ知識や人材を有効活用し、大きな研究プロジェクトに協働で取り組むことで今までにない成果を上げるなど、大学全体の研究力と教育力のさらなる向上が期待されています。

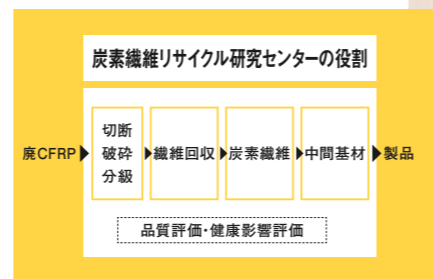


平成28年10月に開設された「炭素繊維リサイクル研究センター」は、航空機や自動車の新たな素材として注目を集める高強度の複合材料「炭素繊維強化プラスチック (CFRP)」のリサイクル技術の実用化を目指す研究拠点。航空機業界から回収した廃CFRPの処理や中間基材の製造、リサイクルCFRPの品質評価のための規格・標準化、健康影響評価などに取り組んでおり、中部の企業によるコンソーシアムの形成やリサイクルCFRPを使った製品化を目指している。

炭素繊維リサイクル研究センター 環境にやさしい ものづくりを進める力

産学連携や地域連携を加速させ、 リサイクルCFRPによる製品化を推進。

当センターでは、リサイクルCFRPの実用化に向けた研究に特化しています。すでに廃CFRPから炭素繊維を回収する技術は事業化のめどが立ちましたが、今後の課題は、回収した炭素繊維から中間基材を作り、製品化までどう結び付けていくかです。そこで、幅広い業界に周知し、炭素繊維リサイクルのコンソーシアムを形成すべく、新たにセンターを立ち上げました。製品化には回収した繊維の健康影響などを評価する必要がありますが、応用生物科学部の先生にも協力を仰ぎ、マウスによる暴露実験などを実施しています。多様な分野の研究拠点が集まる岐阜大学の特色を活かし、今後もリサイクルCFRPを使った製品の開発を推進していく考えです。



炭素繊維リサイクル研究センター長
岐阜大学工学部化学・生命工学科 物質化学コース
大学院工学研究科 環境エネルギーシステム専攻
守富 寛 シニア教授

生命の鎖統合研究センター 新たな分野の研究を進める力

3つの研究コアグループ



「岐阜大学にはすごい
生命科学研究機関がある」と
一目置かれるセンターに。

平成29年4月に開設された「生命の鎖統合研究センター」は、岐阜大学の医学、薬学、獣医学、工学、応用生物科学の各部門で研究が盛んに行われている生命科学の研究を総合的に進める研究拠点として誕生。糖鎖や核酸、タンパク質を分子レベルで研究する「つくる領域」、細胞や組織の現象を解析する「ひも解く領域」、創薬に向けた具体的な取り組みを推進する「活かす領域」の3つの研究コアグループが協働し、世界を牽引する先進的な研究が行われている。

石田教授 総合的な生命科学の研究拠点としての強みを活かし、大きな研究テーマに対してプロジェクトを組んで成果を出していきたいです。そしてその成果を、論文などを通してアウトプットし、「岐阜大学にはすごい研究機関がある」と発信することで、新しい創薬基盤の形成を図っていききたいと思います。

小林特任教授 リエゾンファンクションという外部の機構がマネジメントを専門に行い、提携機関の模索や資金調達などを進めていきます。従来は先生方が個々で外部機関や他大学と連携して研究するのが一般的でしたが、今後は大学内外の連携がより一層強まり、センター全体の研究力が向上することを期待しています。



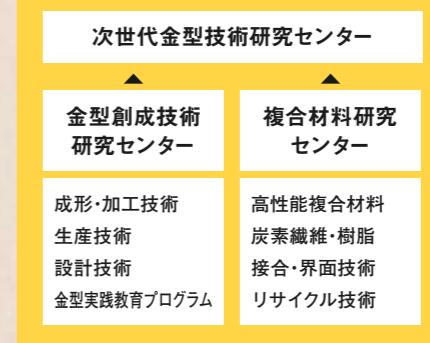
生命の鎖統合研究センター長
岐阜大学応用生物科学部
石田 秀治 教授



リエゾンファンクション担当
岐阜大学研究推進・社会連携機構 研究推進部門
小林 雅典 特任教授

次世代金型技術研究センター 質の高いものづくりを 進める力

「次世代金型技術研究センター」は、「金型創成技術研究センター」と「複合材料研究センター」が持つ研究開発環境と人材育成プログラムを基盤に、平成28年4月に発足されたものづくり技術の新たな総合研究拠点。新素材や加工技術、生産システムの各分野において世界をリードする独創的な研究を展開し、岐阜県を中心とした東海北陸圏のものづくりの一大研究ネットワークを形成する一方、高度な専門職業人の育成にも努め、地元企業の国際競争力の向上に貢献する。



次世代金型技術研究センター長
岐阜大学工学部機械工学科 機械コース
山下 実 教授



金型技術を中心に、ものづくり研究を網羅的に支援できる施設へ。

2つのセンターを「次世代金型技術研究センター」に統合したことで、岐阜大学におけるものづくり研究の窓口が一本化し、民間企業がワンストップで協力を依頼できる体制が構築できました。また、新たに地域連携部門を設けて連携体制を強化することで以前にも増して研究開発が活発化し、政府の補助金を利用した事業などが新たに進んできています。従来の素形材や加工技術に加え、生産システムの部門

を新設し、ロボット技術やIoT、VRなどを活用した次世代生産システムの開発にも着手。これらの技術を組み合わせ、ものづくりを総合的に支援できるセンターができたこと実感しています。設備面においても、平成29年度から金属3Dプリンターが稼働を始めました。効率的に金型が製造できる最新のツールを手にしたことで、企業の技術開発をより一層力強く後押しできるのではと思います。

「遠征の資金集めや部員の獲得にも奔走。様々な苦勞の全てが僕の大きな財産です。」

今から半世紀以上前に創部され、その後廃部した岐阜大学ボート部を復活させた折原薫也さん。自らも全日本大学選手権大会出場を果たし、30名近くが所属する部活へと育て上げた。孤軍奮闘しながら部を牽引し続けたその情熱は、主将を譲った今も後輩の胸にしっかりと刻まれている。部の復活のため、共に奔走した千田隆夫教授も、折原さんのリーダーとしての統率力、調整力に一目置く。



岐阜大学ボート部前主将
おりはら ゆきや
折原 薫也 さん
岐阜大学医学部医学科5年

「岐阜大学ボート部」

昭和37年頃に創部されたが、19年ほど前に部員減少を受けて廃部。平成25年に入学した折原さんの働きかけにより、医学部ボート部として復活を遂げた。その後、全学の同好会を経て、全学の岐阜大学ボート部に昇格。現在の部員は28名（平成29年3月時点）。主な練習場所は岐阜県川辺漕艇場で、平日は大学構内で専用器具によるトレーニングを実施。週末には1時間かけて漕艇場に通い、練習に励んでいる。女子部員やマネージャーなども在籍。他大学と合同で年2回の合宿も行っている。平成28年度は、西日本医学生総合体育大会ボート競技男子ダブルスカル、中部学生新人選手権大会男子ダブルスカルで優勝するなど、着実に力を付けている。

平成29年3月	平成27年	平成26年	平成25年	昭和37年頃	平成10年	創部
部員28名で活動中	全学部共通運動部「岐阜大学ボート部」として活動を認められる	父兄を中心に後援会が結成される	全学の生徒が入部し、同好会「岐阜大学ボート部」発足	医学部ボート部を立ち上げる	廃部	創部



▲「ボートの魅力は、自分が風になったような爽快感」と話す折原さん。「4人乗りや8人乗りの時は、みんなの動きが合った瞬間の一体感が醍醐味の一つです」。

かけがえのない仲間を得て毎年インカレに出場。存続の危機を脱し、今では総勢30名近くに。

なんとか部を立ち上げるのもその後は苦勞の連続でした。高校生の時、水上を駆ける爽快感に魅せられてボートを始めた僕は、部の主将を務め、愛知県選抜として国体にも出場しました。夢だった小児外科医を目指して入学した岐阜大学でも、競技を続けようと思いましたが、ボート部は20年近く前に廃部に。そこで、入学式後の説明会で、日本ボート協会の理事を務める千田隆夫先生に駆け寄り、「部を復活させたい」と想いをぶつけ、そこから全てが始まりました。

その後は苦勞の連続でした。部の復活には、人・物・場所が必要です。まずは川辺漕艇場の近くに住むボート部OBの横山厚志さんを訪ね、ボートや艇庫を貸してもらえようという懇願。その後、友人4人を誘ってなんとか医学部ボート部を立ち上げました。ただ、経験者は僕一人です。孤独な練習が続く、心が折れそうな時期もありました。転機は2年目。ボート経験者が入学し、全学の同好会としても活動を開始したのです。ただ、試合に出るにはボートの購入費や遠征費などがかなりかかります。千田先生からの援助では足りず、父兄の後援会を作って支援を募ったり、船を運搬するトレーラーを安く借り、自分で運転して全国を転戦したりしました。こうした苦勞の甲斐もあり、後輩と2人でインカレに出場。これを機にOB会からもボートを寄贈してもらおうなど、部としての手応えを徐々に感じられるようになりました。

部長を務める千田隆夫教授は、「ボートへの思いが人一倍強く真摯な性格。キャプテンに相応しいですね」と折原さんを評価する。「資金面の援助のほか、後援会の立ち上げなども助言しましたが、初志を貫き続ける彼の姿勢は本当に立派です。部をまとめ上げるための調整能力は、医師としても大いに役立つと思いますね」と将来にも期待を寄せる。



岐阜大学大学院医学系研究科 解剖学分野
千田 隆夫 教授
国際ボート連盟 (FISA) 国際審判員
日本ボート協会 (JARA) 理事・国際委員長・公認審判員



主将を引き継いだ4年生の伊藤拓海さん(写真右)は、「すべて一人でやってきた折原さんは本当にすごい」と話す。2年生で若手のホープ、坂口敬大さん(写真左)は「普段は後輩にもいじられるくらい陽気。でも、ボートを漕ぐ時は別人です」と語ってくれた。

▲中部学生選手権でのダブルスカル(2人乗り競技)優勝のほか、折原さんは数々の大会で優秀な成績を取っている。



◀昨年はかつての部誌「艇身」も復活。数百部を印刷してOBや後援会の会員などに配布した。



多くの皆様から 岐阜大学基金へご寄附をいただき、 心よりお礼申し上げます。

岐阜大学基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。

この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

ご寄附者芳名録

平成28年10月から平成29年3月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。また、4月以降にご寄附をいただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。

現在、実施しております学生支援事業、教育研究活動支援事業、地域貢献活動支援事業、キャンパス環境整備事業、特定事業（寄附者が指定する事業）等を充実するために、今後とも、岐阜大学基金へより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

個人

青木 佐 様 浅井 孝義 様 朝國 くるみ 様 東屋 清子 様 渥美 友啓 様 阿部 尚平 様 天岡 望 様 荒川 淨信 様 安藤 基成 様 飯田 俊行 様 石神 翠 様 石黒 功 様 石塚 達夫 様 石原 勝喜 様 五十川 好子 様 猪塚 昌彦 様 伊藤 忍 様 伊藤 弘和 様 井戸田 綾子 様 稲垣 克己 様 稲田 勝美 様 伊能 のり子 様 井上 健太郎 様 伊吹 治郎 様 今井 敏義 様 今井 義晴 様 岩井 雄司 様 岩田 元 様 岩堤 慶明 様	上田 修一 様 上野 英弥 様 鶴飼 文純 様 大久保 捨雄 様 大塚 俊美 様 大野 勇吉 様 大脇 文子 様 小笠原 政道 様 岡田 実 様 小川 稔 様 奥野 毅彦 様 奥村 正直 様 小栗 敬彦 様 小野 秀一 様 梶野 真二 様 嘉住 熊二 様 糟谷 聰介 様 勝野 淑代 様 加藤 賢龍 様 加藤 晴也 様 可児 光平 様 加納 光子 様 上口 正昭 様	川合 要 様 河上 規夫 様 川島 越也 様 川村 哲明 様 川本 孝行 様 菊池 永裕 様 北村 英樹 様 木村 志治 様 木村 長助 様 木室 欣雄 様 楠本 和智 様 山口 友子 様 小坂 井之忠 様 児島 淳 様 後藤 恵子 様 後藤 裕美 様 小林 房代 様 小林 哲生 様 近藤 富文 様 近藤 裕守 様 榮枝 守彦 様 坂下 盈彦 様	坂田 壮夫 様 久間 代子 様 佐々美 りえ 様 椎木 正典 様 柴田 恭典 様 島袋 直司 様 清水 盛明 様 清水 与八郎 様 社本 晴夫 様 白神 菜々美 様 杉山 忽七郎 様 鈴木 士朗 様 関村 恵子 様 瀨ノ上 裕 様 祖父江 康司 様 高井 重成 様 高井 貴子 様 高橋 睦 様 高橋 義人 様 田川 富士 様 田口 敬 様 竹澤 一夫 様 武島 正則 様 竹中 登一 様 田尻 孝夫 様 田中 萃 様 田中 肇 様	中 需 様 棚橋 好子 様 玉置 健三 様 田谷 与一 様 鶴見 昇 様 雷 智栄子 様 手取 征夫 様 永井 哲朗 様 中島 直樹 様 中島 規子 様 長谷 光展 様 南谷 有香 様 西井 正美 様 二宮 英一 様 丹羽 憲司 様 野島 謙造 様 野田 龍雄 様 萩原 文美子 様 橋詰 律也 様 服部 克己 様 花木 由紀子 様 早崎 正子 様 早矢 仕郁 様 林 久 様 林口 悟 様 原 淑子 様	久江 洋幸 様 日比 敏行 様 日比 雄子 様 平田 史昭 様 平野 善清 様 福井 秀樹 様 船澤 美代子 様 藤浪 利枝 様 不破 一郎 様 星野 順 様 星野 睦夫 様 堀 正美 様 堀 延夫 様 樹岡 智恵 様 柵木 昌助 様 松坂 吉偉 様 松永 重雄 様 松橋 祥幸 様 松村 和浩 様 松本 康 様 三國 喜四郎 様 三品 和子 様 溝口 富宏 様 味元 敬造 様 三宅 富博 様 宮崎 博明 様	見山 政克 様 山輪 妙博 様 三輪 精志 様 麦谷 徹 様 村松 登代二 様 村山 静司 様 森川 裕二 様 森下 純昭 様 森川 彰春 様 八神 由未 様 安田 清次 様 山口 達和 様 山崎 建明 様 山下 二子 様 山本 明子 様 横井 豊三 様 渡辺 美 様 渡辺 繁 様
--	---	---	--	---	--	--

法人・団体等

(医)志聖会 総合犬山中央病院	(株)山田林業	(株)後藤紙店	東栄電業 (株)
(医)白鳳会 鷺見病院	内堀醸造 (株)	華陽紙業 (株)	早川精機工業 (株)
(株)コーワ	岡田クリニック	(公財)井上国際交流基金	ミニストップ (株)

岐阜大学基金の詳細については、Webをご覧ください。
<http://www.gifu-u.ac.jp/fund/>



岐阜大学基金についてのお問い合わせ先
岐阜大学基金事務局 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279 E-mail kikin@gifu-u.ac.jp

お知らせ

障害・慢性疾患のある学生への支援がさらに充実しました！

岐阜大学では障害や慢性疾患のある学生への支援をさらに強化するため平成26年8月に「障害学生支援室（通称：サポートルーム）」を設置しました。

「サポートルーム」には特別支援教育に詳しいコーディネーターが常駐し、授業・実験・実習で困っている学生や担当の職員を支えています。コーディネーターは学生の状況に応じて支援内容を検討し、ニーズを満たす合理的配慮を提供できるよう、学生の所属学部・研究科に対し専門的な助言や調整を行います。保健管理センター、就職支援室、学生支援課、留学生センター、そして外部専門機関等と連携して支援策を講じたり、紹介したりもしています。機関の枠を越えて綿密な連携がスムーズにできることは岐阜大学の強みです。

学生や職員を支え、誰もが安心して学べる大学づくりをさらに進めています！



サポートルームの主な役割

- 学生からの支援に関する相談
(どんな支援を受けられるか、どのような手続きをすればよいか)
- 支援計画の立案・助言
- 授業担当者への配慮願い作成のサポート
- 授業時及びシンポジウム等で情報伝達の補助が必要な参加者がいる場合の支援
(PCノートテイク、動画へのテロップ付加、拡大資料や点字資料の作成)
- ピア・サポーターの養成と派遣



コーディネーター



教育推進・学生支援機構
船越 高樹 特任助教

「障害の有無に関わらず、すべての学生が岐阜大学での生活を価値あるものとして人生の中に位置付けられるようにすること」それが私の目標です。昨年度の調査で本学では実に9%もの学生に障害や慢性的な疾患があることが分かっていますが、潜在的に困難さや不安を抱えている学生はかなりの数に上ります。こんなことで支援なんて…と思わずに、利用できる支援は利用して、ストレスなく自分の目標を達成できるようになることも生きる上での大事なスキルです。障害の有無、手帳や診断の有無で判断するのではなく、少しでも困難さや不安を感じたら気軽に相談を受けられるようにしています。

場所 大学会館2F TEL 058-293-3363 FAX 058-293-3036 MAIL shien@gifu-u.ac.jp
WEB <http://www1.gifu-u.ac.jp/~shien/>

やさ茶を Present!



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。岐阜大学広報誌「岐大のいぶきNo.33」に添付されたアンケートハガキでアンケートにご協力いただいた方の中から、抽選で6名様に「やさ茶(500ml 4本)」を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

▶▶▶ プレゼント応募締切：
平成29年12月31日(日)必着
※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

公開講座のご案内

岐阜大学では大学で行われる授業や研究の取り組みを広く知っていただくため公開講座を行っています。募集期間や定員を設けている講座がありますので、詳細は大学Webサイトでご確認ください。

講座名	受講対象者	開催時期	講習料	実施部局
■ 2017 視る・考える・創る「形と数」の教室 ーキミは数学イノベーター!ー	小学校5年生~中学校1年生までの児童及び生徒(引率保護者1名の参加も可能)	4/22(土)、5/13(土)、 6/17(土)、8/11(金)、 9/16(土)、10/21(土)、12/9(土)	無料	☑ 教育学部 058-293-2351
■ 親子天文教室	小・中学生とその保護者	5/7(日)、8/27(日)、 11/26(日)、H30/2月未定	無料	
■ 昆虫教室「わくわく、びっくり!昆虫探検」	小学生とその保護者	5/7(日)、7/23(日)	無料	
■ 大学生と学ぶ恐竜学入門	小学生とその保護者	10/29(日)	無料	
■ 子どもデザイン教室1「ステンドグラス風飾りづくり」	小学生・中学生	4/16(日)	無料	
■ 子ども造形教室1「木のパズルづくり」 重点講座(ものづくり)	小学生(中・高学年)・中学生	4/30(日)	無料	
■ 子ども色彩教室「カラフル・パラソル」	小学生・中学生	5/21(日)	無料	
■ 子ども版画教室1「スチレンでアート」	小学生・中学生	6/4(日)	無料	
■ 子ども絵画教室「絵の具でアート」	小学生・中学生	7/2(日)	無料	
■ 子ども造形教室2「土の造形」 重点講座(環境)	小学生・中学生	7/16(日)	無料	
■ 子どもデザイン教室2「モザイク・タイル」 重点講座(ものづくり)	小学生・中学生	8/6(日)	無料	
■ 子ども造形教室3「へら押しレリーフづくり」 重点講座(ものづくり)	小学生・中学生	8/27(日)	無料	
■ 子どもデザイン教室3「ふしぎな生きもの」	小学生・中学生	9/17(日)	無料	
■ 子ども造形教室4「紙ブーメランをつくろう」	小学生・中学生	10/15(日)	無料	
■ 子ども造形教室5「コロコロ木のおもちゃ」 重点講座(ものづくり)	小学生(中・高学年)・中学生	11/19(日)	無料	
■ 子ども版画教室2「紙版画でカレンダー」	小学生・中学生	12/24(日)	無料	
■ 子ども造形教室6「厚紙でおしゃれなあかりづくり」 重点講座(ものづくり)	小学生・中学生	H30/1/7(日)	無料	
■ 子どもデザイン教室4「レザークラフトと七宝焼に挑戦」 重点講座(ものづくり)	小学生(中・高学年)・中学生	H30/2/4(日)	無料	
■ 美術教育講座	中学生・高校生	8/13(日)~12/17(日)	無料	☑ 地域科学部 058-293-3003
■ 地域科学部の授業	一般市民 (高校生を含む)	10/14(土)、10/21(土)、 10/28(土)	無料	
■ 応用生物科学部 中学生のための体験科学講座	中学生	10月または11月の土日で 1日開催	無料	☑ 応用生物科学部 058-293-2832
■ 家庭菜園の基礎 ー理論と実際ー	一般市民	4/1(土)~H30/1/31(水)	10,600円	
■ 食べられる生命ー肉と卵と牛乳の科学と実際	一般市民	4/1(土)~H30/1/31(水)	7,600円	☑ 連合農学研究科 058-293-2985
■ 【岐阜大学重点講座(環境)】 『野生生物と環境』	一般市民・学生	10/21(土)	無料	
■ 先端を行く連合創薬医療情報研究科	受験希望者・一般市民	H30/1~3月予定	無料	☑ 連合創薬医療情報研究科 058-230-7602
■ 生命科学研究がもたらすもの(仮)	一般市民・学生	10/1(日)~11/30(木)	無料	☑ 生命科学総合研究支援センター (学術国際部研究支援課) 058-293-2014
■ 生涯学習の今日的意義と課題(7) ー今、生涯学習に求められるものー	生涯学習・社会教育関係 職員・社会教育主事施設・ 公民館主事等学習施設の 職員・ボランティア指導 者・一般市民・学生等	11/26(日)	5,600円	☑ 地域協学センター 058-293-3168

※表示価格はすべて税込です

「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生気・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、「伊吹おろし」と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

岐大のいぶきは Web からご覧いただけます!

<http://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



■ 「岐大のいぶき」についてのご意見・感想をお待ちしております。

送付先 / 岐阜大学総合企画部総務課広報室 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-2009 FAX 058-293-2021 Email kohositu@gifu-u.ac.jp